

資料

表の分析については、○が教師がとらえた幼児の思い、*は教師の意図である。

アにかかわる事例

5月8日「泥団子、教えてやろうか。」(安心して表現できる状況作り)

幼児と教師の言動	分析
○K児、Y児、T児が土山で泥団子を作り始める。	
○Y児は、さらさら砂を泥団子にかけて硬くしようとしている。 教師も一緒に作り、Y児に連休中のことを聞いたりして、1対1でゆったり話をする。	*友達にすぐ手が出るY児とゆったり話し、信頼関係を作ることで、心情を読み取ろう。
○K児とT児は、といを階段のところに置いたり滑り台のところに置いたりして、傾斜を考えている。	○T児は楽しそうな泥団子転がしに気持ちが向いたようだ。
○K児は滑り台の一番高いところといを置き、足りない高さをもう一つのといとつなげようと考え、「どうすればといがつながるかな。うまくできないんだよ。」と、教師に援助を求める。 教師は、K児やT児たちと一緒に考えながらつないでいく。	
○普段おとなしいI児がじっと様子を見ていることに気付いたK児は、「I児くんもやる？」と誘う。I児はうれしそうに泥団子転がしを始める。	○自分の思いがなかなか出せないI児だが、まざりたかったんだ。
○教師「I児くん楽しそうだね。先生とどっちが遠くまで転がるか競争しようか。」と遊びに誘い、泥団子転がしの楽しさを味わわせるようにする。	*思いが実現できるような言葉掛けをすることで、I児の気持ちに寄り添いたい。
○I児は、時間をかけて、泥団子を作る。「転がしてみようかな。」と言って、といから大事な泥団子を転がす。「わあ、僕のはあんなに転がったよ。先生、見て。」と、うれしそうに言う。	○I児は、楽しい遊びを経験することで、自分の気持ちが言葉で表現できたのだろう。
○全員の男児が、泥団子を作って転がし始める。	
○4歳児のN児が滑り台から泥団子を転がしている年長児の様子を見ている。教師の泥団子を使って遊び始めるが、途中で壊れて小さくなってしまふ。	○N児は、年長児の遊びに刺激を受けてまねをするが、うまくいかず困っている。
○Y児がN児に気付いて「教えてやろうか。さらさら砂をいっぱいかけるんだよ。」と言って、ていねいに教え始める。	*友達から乱暴者として見られ、認められることが少ないY児が、実は優しいところがあることを皆に気付いてほしいために、状況を作った。
○降園時、4歳児のN児に優しく接することができたY児を、クラス全員の前で「困っていたN児くん気付いたY児くんは、泥団子の直し方をちゃんと教えてあげたんだよ。N児くんは、とてもうれしそうだった。Y児くんは、偉かったね。」と、認める言葉掛けをする。 ほめられたY児は、照れくさそうに笑う。クラスの幼児たちは、「N児くんの泥団子、元に戻ってよかったね。」「Y児君は優しいんだね。」と、皆にこやかな表情をする。	○Y児は、みんなに認められてよかった。ほっとしたという思いだろう。

〈考察〉

友達と一緒に土山で遊ぼうという気持ちはもっているが、それぞれの幼児の思いは別のようなものである。ただ作ることを楽しんでいるT児、作ったから転がそうとしているK児、Y児などがある。「転がしたい。」という思いの幼児の言葉を教師がキャッチし、タイミングよく環境を再構成したり、「先生もやってみようかな。」という言葉で教師がつぶやいたりすることで、幼児の興味関心が共通なものとなり、活動が展開していったと考える。また、自分の思ったことを安心して表現できるような状況を作ったり、認めたりする言葉掛けをしたことで、感動したことや困ったこと、どうしようか考えたことなど、相手に言葉で表現することができるようになったと考える。

イにかかわる事例

11月8日「かわりばんこしようよ。」（気持ちが落ち着くような言葉掛け）

幼児と教師の言動	分析
<p>○昨日、みんなでドングリ転がしの台を作る。</p> <p>○H児、I児、M児、A児がドングリ転がしをしている。 B児「ドングリ転がし、私にもやらせて。」 H児「いいよ。」 B児「わあ、5点のところに入ったよ。」 A児「おめでとう。」</p> <p>○J児が「まぜて。」と来る。幼児たち「いいよ。」と言う。 B児とI児とM児が遊んでいて、H児とA児は、審判のようなことをしている。</p> <p>○J児「Bちゃんばかりやっつてずるいよ。私もしたいから、ドングリをいっぱいちょうだいよ。」と言う。</p> <p>○B児「待って。私、今始めたばかりなんだもん。」</p> <p>○J児「早くしたいよ。」</p> <p>○B児は、J児の言葉に返事をせず遊びを続ける。</p> <p>○教師「Bちゃん、Jちゃんの声聞こえた？Jちゃんが早くドングリ転がししたいって言ってるよ。」と言葉を掛ける。</p> <p>○B児「だから待って。私が先。」と、声を荒げて言う。</p> <p>○J児「そんなに強く言わないでよ。」と言う。</p> <p>○教師「強く言わないでほしいよね。Bちゃん、優しく言えるんだよね。優しい声で、どうするのかJちゃんに分かるようにゆっくり言ってごらん。」と、J児の気持ちをくみ取り言葉を繰り返したり、B児が思いを言えるように言葉掛けをする。</p> <p>○B児「今、私がするからね。次にJちゃんがやる番だよ。いい？」</p> <p>○J児「だって今やりたいんだもん。」と、すねて言う。</p> <p>○B児「じゃ、かわりばんこにしようよ。どう、この考え。」</p> <p>○J児「いいよ。Bちゃんありがとう。」と、返事をする。</p> <p>○教師「そうだね。かわりばんこすると、一緒にできて楽しいよね。Jちゃんもありがとうって、言ってくれたね。」</p> <p>○H児「Bちゃんこの頃、優しいよね。」と、言い合いの様子を見ていたH児が言う。</p> <p>○翌日、B児「ドングリ転がししようよ。私お店やさんになりたいんだけどな。」</p> <p>○J児「一緒にやろう。」と、2人で相談し、紙を切って券を作る。</p> <p>○J児・H児・M児「じゃあ、お客さんになろう。」</p> <p>○B児「やりたい人は、券を配りますからもらってください。」 「みんなで遊ぶと楽しいですよ。」</p> <p>○教師「今日もドングリ転がしが始まって、楽しそう。券はいいアイデアだね。」と、遊びを認める。</p>	<p>○B児は、A児に認められて気持ちがいい。</p> <p>○J児は遊びにまざったのに自分の番がこなくて不満なようだ。</p> <p>○B児はJ児の言葉は聞こえているが、譲りたくないという思いがあるようだ。</p> <p>○J児はB児にいつも強く言われるので嫌な気持ちのようだ。 *B児の気持ちを落ち着かせ、考えを引き出してみよう。</p> <p>○B児は自分もやりたいし、友達のことも受け入れたいという思いがあるようだ。 *B児の気持ちを受容し、みんなで一緒にできるということをB児に伝えよう。</p> <p>○H児は、日頃のB児の育ちを感じている。</p> <p>○B児は、教師の「一緒にできて楽しいよね。」という言葉掛けが頭に残っていて「みんなで遊ぶと楽しい」という表現になったのだろう。</p>

〈考察〉

B児は、自分のことを批判されると強い口調で言い返すことが多い。J児に言われたことで、B児も言い過ぎたことに気が付いたのではないだろうか。そこをとらえ、教師はB児の気持ちが落ち着くようゆっくり話をしたり、間をおいたりする言葉掛けをした。そして、少しずつB児も気持ちが落ち着いてきて、周りの状況をとらえることができる状態になり、「かわりばんこしようよ。」という、みんなと一緒にやりたいという気持ちが育ってきていることがとらえられた。また、J児やH児の周りの育ちも

B児に影響を与えていると考える。

ウにかかわる事例

12月20日 「一緒に遊ぼう。」（幼児のよさを認め、周りに伝える言葉かけ）

幼児と教師の言動	分析
<p>○B児「Sちゃん、ドングリ転がしして遊ばない？」と、そばにいたS児を遊びに誘う。</p> <p>○おとなしいS児は、にこにこしてうなづく。</p> <p>○B児「どこかにドングリないかなあ。」と、つぶやく。</p> <p>担任がその言葉を聞き、以前B子が園に持ってきたドングリをしまっておいたのを思い出し、渡す。</p> <p>B児「先生ありがとう。」と、うれしそうに言う。</p> <p>○B児はS児に「といを滑り台において転がそうよ。」と言う。</p> <p>S児「うん、いいよ。」と言って、2人で持ってきて滑り台に準備し、転がす。「わーい、転がったよ。」と、うれしそうに言う。</p> <p>○見ていたY児「僕もまぜて。」B児「いいよ。一緒に遊ぼう。」</p> <p>○Y児「もっと長くしたら面白くなるんじゃない？」</p> <p>B児「そうだね。じゃあ、Y君持ってきてよ。」</p> <p>そこで、Y児が持ってきた長いといを3人でつなげようとする。</p> <p>B児「あれ、なかなかうまくいかないよ。取れちゃう。」と、いらいらし始める。ちょうど見ていた教師が①「取れちゃうんだ。下で持たないからなんじゃない、どうだろうね。」と、助言する。</p>	<p>*ちょうどB子が前に持ってきたドングリがあったのを担任が思い出し、タイミング良く渡すことができた。</p> <p>○B児もS児も、転がったことで満足している。</p>
<p>Y児「じゃあ、下で僕が持つからBちゃんは上で押さえて。Sちゃんが滑り台にしぼって。」教師「いい考えだね。」と、Y児の考えを認める。</p> <p>B児「Y君、いいこと言うね。」</p> <p>3人は、Y児の考えでつなげる。教師「うまくできたね。みんなで力を合わせるといいね。」と、協力することのよさを伝える。</p> <p>○B児「転がしてみよう。みんな、あたしのドングリ使っていいよ。」</p> <p>○S児「さっきより遠くへ転がった。」と、嬉しそうに言う。</p> <p>B児「こんどは丸いどングリ転がすよ。」と、丸いクヌギと長いマテバシイを転がして見る。「丸い方が遠くへいった。」</p> <p>○Y児「ねえ、曲げたらどうなるかなあ。」B児「いいよ、やってみようよ。」と、いろいろ試してみる。</p>	<p>○Y児は、気持ちが落ち着いていて、B児にも突っかからずに言えたことがよかった。</p> <p>○S児は、進んで自分から遊んでいる。楽しいのだろう、言葉が出ている。</p>

〈考察〉

B児は気持ちが安定してきて、友達と目的に向かって相談しながら遊びが進められるようになってきた。今まで自分のことばかり主張してきたB児やY児も、友達のよさが分かり、言葉に出してよさを認める発言ができるようになった。教師は、できるだけ幼児のよさを認め周りの幼児に伝える、協力することが大事であることを伝える、幼児たちの話し合いに任せる、などが大事であったと考える。また、(①)の教師の言葉掛けは、幼児の遊びが途切れず継続できたこと、考える余地を残しての助言であったため、相手の思いに気付き、気持ちや考えを言葉で表現しながら遊びを進めることができたと考える。

〈おとなしく、友達との会話が少ないM児〉

5月後半 「砂場はどうしたかなあ。」

幼児と教師の言動	分析
<p>○普段は、4歳児の時から仲のよい双子のT児とJ児と一緒にいることが多い。双子とはいろいろな話をするが、教師や他の友達とはあまり言葉をかかわさない。</p>	

<p>○珍しく双子とかかわらないM児である。</p> <p>○遊びを見付けているように見えるので、教師がそばに行く。一緒に友達遊ぶ様子を見て回る。</p> <p>○砂場で立ち止まるので、「Mちゃん、遊ぶ？」と聞くと、にこっと笑い自分からシャベルを持つが、動かない。</p> <p>○S児と年中組のN児が川や陸を作っている。</p> <p>○教師も仲間になり、「どうすればいいかな。」とS児とN児に聞く。</p> <p>○N男「長く道を作るんだよ。川だよ。そして水を流すんだよ。」と、教師に教える。</p> <p>○教師は、「よし、わかったよ。頑張って掘ろう。」と、仲間として元気に掘り始める。</p> <p>○教師「Mちゃん、先生疲れてきちゃった。応援してほしいな。」と言うが、笑っているだけで、シャベルを持ったまま見ている。</p> <p>○昼食の時間になったので、そのままにして明日続きをすることにする。</p> <p>○翌日、M児は「砂場はどうしたかな。」と言い、砂場へ行く。そして自分で進んで橋と島を作る。</p> <p>○昨日より、川が広がり、水も流し、砂場がダイナミックになる。</p> <p>○M児は、自分で埋め立てた島の部分に乗る。しばらくして水が増え、「ああ、渡れなくなっちゃった。」と言う。そして、渡るための橋を作り始める。その様子に気付いたN児「あ～あ、水が行かないよ。」といい、M児をうらめしそうに見る。M児は考えて、ぼそっと「つながればいいと思う。」と独り言のように言う。</p>	<p>○いつも双子と一緒にいるのに、どうしたのか。自分のしたい遊びが見付かったのかもしれない。</p> <p>*「砂場で遊びたいのかな。」と思いき、砂遊びができるようタイミングを逃さず誘いかけてみよう。</p> <p>○見ているだけで遊ばない。でも、砂場からほかの遊びに移らないので、興味はもっているのだろう。</p> <p>○自分から砂場へ様子を見に行った。忘れてなかったんだ。気持ちが持続している。</p> <p>*M児に活動のきっかけを作ろうと考え言葉を掛けたのだが、M児の思いがあるようだ。</p> <p>○N児は、きのうから川を長く作り水を流そうという思いがあるようだ。</p> <p>○普段おとなしいM児であるが、N児が時々自分の思いと違う場面になることを知っていて、冷静に独り言を言ったのだと思う。</p>
---	--

〈考察〉

4歳児の時から自分の思いを表面に表さず、T児とJ児の双子といることが多い。おとなしいので双子の意見に引っ張られて遊びが進められることが多い。教師は最初、双子と一緒にいることで安定するのだろうととらえていた。しかし、周りが見えてきたことで自分の思いを行動で少しずつ表し始めてきた。この活動では、自分ではあまり掘ったりしないが、じっくり見ることで川の状態や砂の様子をよく考えているのだと思う。M児は言葉に表さないが、強い意志をもっているため、教師は、無理に遊びに誘い込むのではなく、M児の思いに沿った言葉掛けをすることが必要だと考える。M児とかかわり、M児の気持ちを理解しながら信頼関係を築いていきたい。